美しいまちづくりのために

かなざわ景観だより

第4号

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

平成九年（一九九七）五月発行
■企画編集／景観だより編集委員会
■発行／金沢市広坂一丁目一一一
金沢市都市政策部まちなみ対策課
（〇七六二）二〇—三六四

こまちなみに出会う

—昔も今も変わらぬ息づかい…—

金沢には、貴重な歴史的建築物が今もなお、数多く残っており、個性的なまちなみに歴史と文化の彩りを添えています。「こまちなみ」とは歴史的風情を残す、そんなちょっとした良いまちなみのことを言います。また、「こまちなみ」は単にまちなみとして美しいだけではなく、そこに住む人々の生き生きとした生活の匂いの感じられるまちなみでもあります。

旧天神町通り（きゅうてんじんまちどおり）

金沢には、北国街道を始めとして、宮腰往環や戸室石道（石引往来）など、歴史を伝える多くの街道が残されています。

現在の天神町二丁目と扇町の一部は、かつて上天神町、下天神町といわれ、城下の玄関口として賑わった懸作（現・橋場町）から材木町を経て田井天神社（現・椿原天満宮）へといたる道筋にあたりました。当時、この道は、若松村から二俣村を経て、遠くは越中・福光を結ぶ「お谷越」と呼ばれた街道につながり、山里から金沢城下へ様々な物資をもたらす大切な往来として、たくさんの人々が行き交ったと言われます。

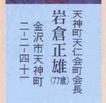
町名の由来ともなっている椿原天満宮は、中世の一向一揆の時代には一向衆の砦が築かれていた場所に当たるとされ、現在でも境内から石川門を一望することができる高台にあります。その社前への道筋には、いわゆる町家形式の歴史的建築物が多く残り、比較的背の高い表構えに、一階には玄関格子戸横の木虫籠（キムコ）、二階には漆喰塗真壁造の袖の卯建（ソデウダツ）などがみられ、往時の姿を今に伝えています。

小立野台東側斜面下を縫うように続く道筋は、斜面の緩を背景に「鈎（カギ）の手」や緩やかな曲がりをみせ、歴史的なまちなみを一層印象深いものとしています。また、宝円寺から天神町へと下る馬坂途中からは、平入り黒瓦葺き切妻屋根が折り重なるように連なる様を眺めることができます。

昔そのままの構えに改修されている建物もみられ、そこに住む人々の伝統を大切にする心遣いが感じられます。また、旧金沢五社のひとつにも数えられた椿原天満宮前では、今でも春秋の祭礼の頃、多くの夜店が軒を連ね、たくさんの子供たちで賑わいます。

このような歴史と育まれたまちの息づかいや営みが見られる「こまちなみ」を、市民みんなの宝としていつまでも大切にしていきたいものです。

まちのひと



天神町天仁会町会長
岩倉正雄（77歳）
金沢市天神町
二二二四十一

旧市街の多くの町と同じく天神町も神社が町の中心となっています。生まれた時からこの町に住んでいますが、保護者の遊び場でしたし、春や秋の祭りには見せ物小屋が来て、楽しかったことを良く覚えています。宗教的な意味合いとはまったく別に、神社は日常にとけこんでいました。

神社の横を通る天神坂は、昔は人一人通るのがやっとなくらいのけもの道でしたが、昭和初期、さる篤志家によって切り開かれました。小さいころはよく荷馬車が行き来していたものです。戦前は、陸軍の立野原演習場（富山県）への軍用道路としても活用され、軍靴の響きが絶えませんでした。

町には、福光街道の宿場町として栄えた当時の任侠屋（もちたや）風の面影を残す家も多く、町民の間では趣のある家並みを残していきたいという気持ちが強くみられます。

まちのれきし

旧の天神町は、二丁目から四丁目まであって、小立野台地下に沿ってほぼ東西に延びる町筋をなしています。

町名の由来となった椿原天満宮は、もともと金浦郷の総社で、社格も高く旧金沢五社・他四社は鍛冶八幡、神明宮、小坂神社、卯多須神社の筆頭にランクされ、古くから田井天神、椿原社などと呼ばれて親しまれてきた。椿の名は、昔この地に一向一揆の大将州崎兵庫が陣屋をおき、椿が多数あったところから、椿原砦と称されていたことによる。

昭和四一年二月の住居表示で、田天神町二丁目全部と同二丁目、田井町、田町新道、吹屋町の各一部が天神町一丁目に、板前町と品川町の全部が天神町二丁目に、材木町二、三、四丁目、柿木町、田町、田町新道の各一部が天神町二丁目に、また田天神町四丁目の一部は扇町にそれぞれ町名変更された。

（参考文献〔金沢・町物語〕能登印刷出版部、「石川の地名」平凡社）

景観美カタログ

第9回いしかわ広告景観賞

▲クレアシオン恵蔵（西念町）
サイン、ファサードとも高級感を醸し出し、効果的な照明が宝石の輝きを思わせます。

◀グリーンテック㈱（専光寺町）
ステンレス鏡面とヘアラインの取り合わせがよく、造形的な工夫がおもしろみを出しています。

▲手打そば処　くら（尾張町）
白壁が城下町の雰囲気を表わし、昔風の突き出しと壁面のサインが伝統的なまちなみに調和しています。

▲籟木商舗（武蔵町）
昔から伝わる窯元の看板と現代風にアレンジしたサインのコントラストが優れ、その町の 雰囲気を醸し出しています。

金沢まちなみ広告賞

◀クレアシオン恵蔵（西念町）
大変斬新で、夜間照明にも洗練されたデザイン、企画意図が感じられます。

▲杜（もり）の里遊歩道サイン（若松・鈴見土地区画）
高さを子供の目線にあわせ、人に優しく心がなごむように造られています。

▶ニュー三久泉が丘店（富樫）
住宅街という地域性を考慮し、表示面積も小さくして落ちついた雰囲気を醸し、店のイメージを高めています。

▲自由軒（東山）
伝統的なまちなみに配慮されたシンプルな看板で、夜間の見え方にも心配りがされています。

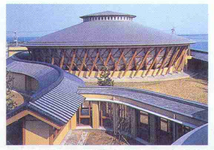
◀松村物産㈱増泉給油所（増泉）
キャノピーサインをなくし、防火塀もマークのみの最小限とし、全体の色合いも押さえてまちなみに配慮されています。

▶神戸館杜（もり）の里店（若松・鈴見土地区画）
ログハウス風の個性あるデザインが品の良い店舗を形づくっています。

▲三崎ストアーベルポート店（北塚町）
彩度を落とし、広告塔の幅も小さくして、住宅街のまちなみ形成に貢献しています。

奨励賞

第19回金沢都市美文化賞



▲石川県金沢港大野からくり記念館（大野町）
からくりをモチーフとしたユニークなデザインをもち、新たな港のシンボルとなっています。

▲㈱アイ・オー・データ機器第2ビル（戸板）
シンメトリーを充分に意識しながら、幾何学模様を配した質の高い建築デザインです。

▲能上邸（久安）
瓦屋根のスッキリとした軒先など、しっとりとした安らぎを感じます。

◀㈱玉家建設　ハウジングギャラリー響（入江）
敷地に季節感のある植栽ゾーンを設け、外壁色や看板に至るまでまちなみ美観を意識しています。

▶内川墓地公園（小原町）
周辺の山林との景観の調和を図り、開放的で緑豊かな墓地公園になっています。

▶坪内邸（長坂）
ピアノのようなカーブをした木製テラスと乾式の外壁タイルとの対比が特徴的です。

◀金沢市南斎場（西泉）
斬新な造形でありながら、周辺住宅との調和に充分な配慮がされています。

▲金沢市営松寺町住宅（松寺町）
ゲートから垣間見える植栽や近代的なデザインなどが、新たな市営団地の試みとなっています。

▲金沢国際ホテル、レストラン&ステーキN36.5、高尾ガーデンチャペル（大額）
低層で淡桃色の外観が周辺の緑とのコントラストを優しく保っています。

気配り賞

▶東山1、2丁目地内道路修景整備工事（東山）
昔の面影をそのままに、周辺の寺院や土塀に配慮して、淡い色彩で修景整備されています。

▶宗桂会館（日機装㈱金沢製作所展示館）（北陽台）
日本の伝統的和風様式で建設され、周辺環境にも配慮されています。

わたしのかなざわ

金沢

のまちは、改めて見つめなおすとても良い所がたくさんあると思います。機会があり、市内にある由緒ある坂を調べることがあったのですが、いいなぁと思う所がいくつもありました。これからも実際に歩いて自分なりの好きなところを見つけることができたらと思います。

（金沢市瑞花在住　20代・女性）

景観

という言葉が出たと思うのは最近だと思う。金沢は最近リフアーレなどの新しい建物も人気があり、観光地としても人気がありよい町だと思う。しかし、まちづくりの為のワークショップに参加するのは、関係者か学生だけだ。もっと住民みんなが参加するものを作っていくべきだと思う。市民の意識改革が必要ではないか？

（金沢市梅川在住　20代・女性）

市街南部

に住んでいますが、新興住宅にもお洒落なお家が出し出せればいいのにと思います。実家のある子育ての新興住宅地とあまり変わらないのはちょっと残念です。保存地区だけでなく、新しい街も演出していってほしい。新興地に金沢らしさをどう植え付けて育てていくのかが、興味あるところです。

（金沢市在住　30代・男性）

自然

そのもの化的な美・文美・文しの中における街並みの美が所々に見られるが、その良さや価値がはっきりと外に現れていないような気がする。幼い子供でも遊べるいい刺激されるような景観を、これからよりよく、創りあげていってほしいと思います。同時に形だけが景観づくりではなく、人とまち、文化がお互いに生きてくるドラマティックな「平成の金沢」を歴史に刻んでいってほしいです。

（金沢市見附町在住　20代・男性）

浅野川

の旧並木町にマンションが建って山と川が醜し出す美を壊しています。どうにかならなかったのかという思いです。せめて建物の色だけにでも考慮してもらえないものでしょうか。

（金沢市末町在住　60代・男性）

堅町

・片町などのにぎやかなところも好きですが、浅野川界隈などを散策すると、歴史的なまちなみ、自然にはっとさせられます。最先端の街にも思います。最先端のまちなさも忘れさせてくれる様なまちなみが参加するのも大切ですが、古都金沢はやっぱり歴史的景観の保全に力を入れていってほしいと思います。

（金沢市高尾台在住　20代・女性）

おしらせ

●今年も、〇月〇日（都市景観の日）を中心に、「親子で歩こう！金沢のまちなみ」や「野わいまちなみフォーラムの開催を予定しています。金沢のまちやいえに触れ、親しみながら、自分たちのまちをもっと理解し、好きになる機会にすればと思っています。ふるって参加ください。

●本号に紹介しました「歴史的景観都市シンポジウム「歴史が育むひと・まち・金沢」を記録集として発行いたします。ご希望の方は、まちなみ対策課へお申し込みください。

●まちなみ対策課では、景観についての皆様の率直なご意見やご感想を待ちしております。ふと見つけた素敵なまちなみなどお気軽にお寄せください。

編集後記

今年は、昨秋開催しました歴史的景観都市シンポジウムの特集をさせていただきました。「歴史都市の都市格を考える」と題して、京都市副市長との対談をメインに企画しました。

京都の千数百年に及ぶ歴史の中に金沢市の四百年の歴史をみつめ、そこに暮らす人々の生活の中に日々のまちづくりへの市民の思いを語りあっていただきました。

「まちづくりの主役は、住民である」と常に言われ続けてきましたが、未だ「まちづくり条例」を制定していない状況です。しかし、平成6年に「こまちなみ保存条例」を制定してから、指定した区域を中心に住民によるまちづくり団体がつくられ、活発にその活動が進められています。今、まちづくりが住民の手で行われようとしています。

シンポジウムでも、これからまちづくり団体の代表により、自分たちの町のまちづくりの取り組みについて真剣な討論をしていただきました。

金沢市では、昭和48年から景観に関する条例の制定を通じて市民の皆さんと一緒にまちづくりを考えてきました。今では、市民の皆さんに、抵抗なく景観に対する思いが受け入れられるようになりました。

今後とも、まちづくりの主役は市民であることを念頭に、よりよいまちづくりに取り組んでまいります。市民の皆様には、より一層のご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

TREE FREE
トータル・エコロジー・バランスに優れた21世紀の紙「ツリー・フリー・ペーパー」（非木材紙）を使用しています。